



# 海外生活 レポート 57



せん ほん ぎ む み こ  
**千本木 恵美子さん**

埼玉県志木市出身。川崎市在住。JICA海外協力隊2023年度3次隊の一員としてウズベキスタンで青少年活動を担当。川崎市では保育士をしたり、ボランティアとして麻生区多文化共生推進事業等に参加してきた。趣味は食べる！本・漫画を読む！旅！

## アッサローム アライクム Assalom Alaykum! ウズベキスタンからこんにちは!

私は現在、ウズベキスタンでJICA海外協力隊員として現地の小中高一貫学校で日本語・日本文化を教えています。子供たちは明るく元気いっぱい！親日国なので、日本に興味を持つ子が多く、積極的に授業に参加してくれます。



日本の生徒へメッセージ入りポスターを作成！川崎市の学校に届けました。

アクティビティを使った日本語指導を小中学生に行っており、漫画・イラストで身体の部位を教えたり、文化紹介で相撲大会を行ったりしています。書道・折り紙・寿司パーティー・ロボット講座・日舞体験も行いました。カルタも人気です。

## ウズベキスタンの食事とお茶

大陸性気候で夏は40℃、冬は-10℃となる砂漠乾燥地帯ですが、小麦や米が収穫できます。大きなお鍋(コゾン)で作るプロフ<sup>(注2)</sup>は、結婚式やお祝い事に欠かせません。ナン、マントウ、ラグマン<sup>(注3)</sup>、羊や牛肉のシャシュリク<sup>(注4)</sup>など美味しい食べ物が沢山あります。食事の時はお茶をよく飲み、客をおもてなしするお茶会も良く行われます。日本式お茶会を行ったところ、「おいしいです」ととても喜ばれました。



ウズベク語の先生とお茶会

(注2) 炊き込みご飯、ピラフ。  
(注3) 小麦粉で作った麺。炒めた具材をかけて食べる。  
(注4) 調味料に漬け込んだ肉の串焼き

## アラル海の消滅危機…?

ウズベキスタンの北西にアラル海という塩湖があり、アラル海の縮小問題があります。かつて世界で4番目に大きかったアラル海は、綿花栽培等で大量に水を使ったため、半世紀で半分に縮小しました。塩分濃度が高くなって、魚も住めなくなりました。JICAでもプロジェクトで農業構築を行っています。



「アラル海」結晶化した塩が見える。

ウズベキスタンは日本では認知度が低い国ですが、魅力あふれる国です。治安も良いので機会があればぜひ遊びに来てください！



「陶芸の里リシタン」Noriko学級という無料で日本語を学べるジャパンセンターもあります。

# ウズベキスタン共和国



日本から来たボランティア仲間・留学生と、書道と折り紙の講習会を行いました。



「Navoiy劇場」ウズベキスタン日本イベントが行われました。

## ウズベキスタンは中央アジアの国!

私の住んでいる中央アジア最大の都市、首都タシケントは約2000年前からオアシス都市として栄え、11世紀からは「石の町(タシケント)」と呼ばれています。市民の芸術の場所であるNavoiy劇場は、第二次大戦後、シベリアに抑留された捕虜の日本人が建設に従事しました。

## シルクロードの魅力がたくさん! 歴史も面白い

ウズベキスタンの歴史は、紀元前1000年頃にイラン系遊牧民ソグド人がこの地に現れたところから始まります。8~9世紀にイスラム王朝アッバース朝、13世紀にモンゴル帝国、14世紀に英雄ティムールがサマルカンドを復興、1991年にソ連から独立しています。そのためイスラム文化と旧ソ連文化が融合しており、ウズベク語、ロシア語のどちらも話せる人が多いです。

世界遺産が5つあり、①青の都サマルカンド文化交差点 ②バハラ歴史地区 ③ヒヴァのイチャン・カラ<sup>(注1)</sup> ④シャフリザブス歴史地区 ⑤西天山です。

(注1) 内城。内壁の内側にある旧市街地を指す。

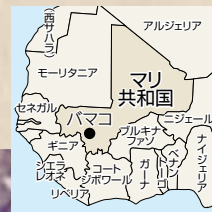
## INFORMATION



### ウズベキスタン共和国

面積 448,969km<sup>2</sup>  
人口 3,520万人  
首都 タシケント  
言語 ウズベク語

「2024多文化共生フォーラム・コンサート」(4,5ページ参照)で基調講演をしていただいたウスビ・サコさんに、空間人類学の研究者、大学教授として、また「マリアンジャパニーズ」(注1)の視点からのコメントを伺いました。



マリ共和国

面積 1,240,000km<sup>2</sup>  
人口 2,259万人  
首都 パマコ  
言語 フランス語 ほか

## 「多文化共生」について、 学生の意識は変わりましたか？

日本って意識が変わるのがゆっくりとか、そもそも学生は「必要性を感じない」って言うんですよ。ちゃんとこちらが意識を持ってないと彼らは変わらないと思って、(京都精華大学の)学部長の時に留学プログラムを立ち上げ、日常の刺激とか自分の限界を体験できるようにしました。学長の時にも留学生を30%増やして、日常の中で多言語や異文化があるって意識させる施策を進めたんです。多言語がある日常に洗脳されていく、存在を意識させる、それがマジョリティー(多数派)の意識を変えるってということなんです。学生たちも少しずつ変わってきてるような気がするんです。

留学生たちが居場所を開拓できるようにと作った国際交流拠点iC-Cube(Inter-Cultural Communication Commons)には、キッチンを入れたんです。たとえばフランス人留学生が「クレープ作るよ」って呼び掛けたりするんですが、よくよく見たら学生に教員も職員も交ざって、交流の場になってるんですね。こういう柔軟性を空間として持てれば、外国人もやっていきやすくなるというイメージがあります。



## 今、オーバーツーリズムが 問題になっていますね

でもね、京都では空き家が増えて全国で一位、14%超え。私がプロジェクトをやっている地域は25%もあるわけです。そういう地域って、急に外国人が「民泊」で足元に来ちゃうと排他的になりがちなんです。

それはたぶん弱さだと思うんです。オリエンテーションができてないってこともあるんですけど。

私が提案したのがお客さんを共同で受け入れるってこと。例えば、今日は吉田さんの家で晩御飯が食べられる、田中さんの家ではお風呂に入られる、どこそこでお茶が飲めるとか、地域のネットなんかで情報を出して、お客さんはそこから選んで行く。いわゆる地域で受け入れていく。多分、昔の村社会ではあったんじゃないかな。それを楽しむっていうのでもいいんじゃないかと思うんです。

## サコさんも料理を作るのですか？

作りますよ。パーティーでは、マリ料理をみんなに食べてもらいたくて作ります。マリはこんな料理なんだとか、日本の方は日本料理を持ってきたりして、お互いに受け入れていくことがすごい重要だと思っています。お互いにどんなものを食べているのかを見て、味わって、交流していくことが大事だなと思います。



マリ料理「マフェ」(ピーナツ風味のシチュー) 米が主食でこのようなシチュー料理が多い。

## 講演でも、お互いのアイデンティティを尊重し、 対話することが重要というお話がありましたね

パネルディスカッションで、川崎市は外国人の声を拾いあげる努力をし、外国人の方々が活躍している話もありました。ただ、日本の法律全体が変わらないと難しい。もう一歩先に行けるのに行けないと感じます。私は京都で長年活動していますが、毎年、京都府知事に出す政策提案も「参考」に留まっています。外国人をアドバイザーとしてではなく、地域に住む一員として、責務を作って、入れて、議論して、法律を作っていくといいと思うんです。川崎の多様性をもっと引き立てるためにも、それぞれの外国人が持っているポテンシャルとアイデンティティを尊重すべきだと思うんです。私は日本国籍を取るけど、日本に同化するというわけではない。だけど、一市民、一国民としてこの日本をどうしていくか、みんなで参画していくことはすごい重要だと思っています。

## ご研究の根元にある、マリの中庭(注2)のお話とも 共通するところがあるようです

そうですね。マリでは中庭で調理する人もだんらんする人もいるし、子どもたちに勉強を教える人もいます。お互いの姿は見えるけど、お互いの領域は尊重して入らないことがポイントです。朝、姿が見えない人の部屋に行ったら「体調が悪い」って言って、誰かが「ちょうどスープ作ったから持って行くわ」ってことが起こるんですよ、コミュニティの中で。好き嫌いじゃなくて、お互いのことを知ればそういうことが起こるかなと思ってます。マリにいる時は、中庭があるところは西洋化しきれてないってコンプレックスだったんですよ。でも、海外に出て建築を勉強して、マリに戻って改めて「いいなあ」と思ったんです。近代建築の合理性は社会を分断し続けてきたんですが、どっかで我々は立ち止まって考えてもいいんじゃないかな。マンションとかにコモンズ(共有地)を作って、そこでお祭りをするとか、みんなで料理作るんだとか、そうすれば地域の人たちはコミュニケーションができるし、そこに外国人が来たらスツと入れると思うんです。

## 息子さんが 川崎に住まわれるようになったとのこと、 これからご縁ができそうですね

川崎とは縁がないんじゃないかなと思うたら、息子の転勤後の住所が川崎市中原区だと1週間前に知ったんですよ。私の同僚もこの近所なんで、この後、同僚の家でお茶して、息子の家でご飯を食べるんです。今日は川崎を満喫しますよ。

(注1) サコさんの自称。マリ人であり、日本人でもあること。

(注2) 数軒が共有して使う屋外スペース。4ページを参照。